

Euler Products for Multiple Zeta Functions

東工大・理 黒川信重 (Nobushige Kurokawa)

多重ゼータ関数の「オイラー積表示」を多重双曲正弦関数の場合に述べる。

r 個のゼータ関数 $Z_i(s) \ (i=1, \dots, r)$ が有理型関数 \tilde{z}

$$Z_i(s) = \prod_{p \in \mathbb{C}} (s-p)^{m_i(p)}$$

と重複度関数 $m_i : \mathbb{C} \rightarrow \mathbb{Z}$ によることで表示されることはとき ($\tilde{z} = \exp(\text{多項式})$ の因子は無視する)

多重ゼータ関数 $Z_1(s) \otimes \dots \otimes Z_r(s)$ を

$$Z_1(s) \otimes \dots \otimes Z_r(s) = \prod_{p_i \in \mathbb{C}} (s - (p_1 + \dots + p_r))^{m(p_1, \dots, p_r)}$$

$$m(p_1, \dots, p_r) = m_1(p_1) \dots m_r(p_r) \times \begin{cases} 1 & \dots \text{すべての } \operatorname{Im}(p_i) \geq 0 \\ (-1)^{r-1} & \dots \text{すべての } \operatorname{Im}(p_i) < 0 \\ 0 & \dots \text{その他} \end{cases}$$

\vdash 定義する。さらには $Z_i(s)$ は関数等式とオイラー積表示

$$Z_i(s) = \prod_p H_p^{i^s} (N(p)^{-s})$$

をもつとする。ただし、 $H_p^i(T) \in 1 + T \mathbb{C}[[T]]$ とする。
このとき、明示公式（跡公式）

$$\sum_p M_i(p) = \sum_p W_i(p)$$

が成立する。したがって、多重明示公式

$$\sum_{p_1, \dots, p_r} M(p_1, \dots, p_r) = \sum_{p_1, \dots, p_r} W(p_1, \dots, p_r)$$

が成立する。また、 W が上記の多重ゼータ関数
 $Z_1(s) \otimes \dots \otimes Z_r(s)$ を与えるように選べば、 M が
簡単な関数になってしまえば オイラー積表示

$$Z_1(s) \otimes \dots \otimes Z_r(s) = \prod_{p_1, \dots, p_r} H_{p_1, \dots, p_r}(N(p_1)^{-s}, \dots, N(p_r)^{-s})$$

$$H_{p_1, \dots, p_r}(T_1, \dots, T_r) \in 1 + (T_1, \dots, T_r) \mathbb{C}[[T_1, \dots, T_r]]$$

をもつ。実際、形式的には、これは成立する。ここで
重要な事は $Z_1(s) \otimes \dots \otimes Z_r(s)$ の定義における $m(p_1, \dots, p_r)$
の符号条件であり、これを取り換えると、一般には うまく
いかない。 $(H_{p_1, \dots, p_r}(T_1, \dots, T_r))$ が上記のようには取れない。

さて、簡単な実例を多重双曲正弦関数の場合に2つ述べる。ただし、 \exp (多項式)の項は無視して、 $r=2, 3, \dots$ に注意。これを \cong で示す。

定理1 $M > 1$ のとき $r = 2, 3, \dots$ に対して

$$(1 - M^{-s})^{\otimes r} = \underbrace{(1 - M^{-s}) \otimes \cdots \otimes (1 - M^{-s})}_{r \text{個}} \cong \exp \left(- \sum_{k=1}^r \frac{1}{(2\pi i)^{k-1}} h_r^{(k-1)} \left(\frac{s \log M}{2\pi i} \right) L_{i_k}^{(k)}(M^{-s}) \right).$$

$z = e^s$, $\operatorname{Re}(s) > 0$,

$$h_r(T) = \frac{(T+r-1) \cdots (T+1)}{(r-1)!},$$

$$L_{i_k}^{(k)}(z) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{z^n}{n^k} \quad \text{は } k \text{ 対数関数}.$$

一般の $(1 - M_1^{-s}) \otimes \cdots \otimes (1 - M_r^{-s})$ の表示は簡単ではないが $r=2$ のときはこれが成立する。

定理2 $M, N > 1$ に対して $\frac{\log M}{\log N}$ が無理数である

$$\liminf_{m \rightarrow \infty} \left\| m \frac{\log M}{\log N} \right\|^{\frac{1}{m}} \geq 1 \quad \text{をみたすとする。}$$

このとき $\operatorname{Re}(s) > 0$ において

$$(1 - M^{-s}) \otimes (1 - N^{-s}) \cong \exp \left(\frac{1}{2i} \sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{m} \cot \left(\pi m \frac{\log M}{\log N} \right) M^{-ms} \right.$$

$$+ \frac{1}{2i} \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n} \cot \left(\pi n \frac{\log N}{\log M} \right) N^{-ns}$$

$$\left. + \frac{1}{2} \log(1 - M^{-s}) + \frac{1}{2} \log(1 - N^{-s}) \right).$$

このような M, N の例は次の 2 つが代表的である
がある：

① $\frac{\log M}{\log N} = \frac{\log \alpha}{\log \beta}$ となる代数的数 α, β がある。

② $\frac{\log M}{\log N}$ が代数的数。

(たとえば、ともに $\frac{\log M}{\log N}$ は無理数とする。)

なお、定理 2 の $(1 - M^{-s}) \otimes (1 - N^{-s})$ は実質的に Shintani [4] によじ導入された。 $M = N$ のときは Hölder (1886) が起源である。 Hölder, Shintani とともにこの関数を F と表示している。

また、定理 1 は階数 1 のセルバーグセータ関数のガンマ因子の計算には応用があり、ガンマ因子は

Barnes の多重ガンマ関数の積になることがある。
 これは リーマン面のセルバーグゼータ関数のガンマ因子
 の計算 (Vignéras [5] 及 Cartier-Voros [1]) の拡張
 になっている。これらの結果によると他の応用
 については 論文 [2][3] を参照下さい。

文献

- [1] P. Cartier and A. Voros : "Une nouvelle interprétation de la formule des traces de Selberg" C.R. Acad. Sci. Paris 307 (1988) 143-148.
- [2] N. Kurokawa : "Multiple zeta functions: an example"
 (1990 preprint = Proc. "Zeta Functions in Geometry" (1990年8月東大))
- [3] N. Kurokawa : "Multiple sine functions and Selberg zeta functions" Proc. Japan Acad. 67A (1991) March, 61-64.
- [4] T. Shintani : "On a Kronecker limit formula for real quadratic fields" J. Fac. Sci. Univ. Tokyo 24 (1977) 167-199.
- [5] M.-F. Vignéras : "L'équation fonctionnelle de la fonction zêta de Selberg du groupe modulaire $PSL(2, \mathbb{Z})$ " Astérisque 61 (1979) 235-249.